TÜVRheinland®
Precisely Right.

「理想科学工業 環境経営報告書 2016」第三者審査報告書

理想科学工業 株式会社
代表取締役社長　羽山　明　殿

2016年7月15日
テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社
代表取締役社長　ホルガー・クンツ

1. 審査の範囲及び目的並びに対象

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が作成した『 理想科学工業 環境経営報告書2016 』及び『 ＷＥＢ掲載の環境データ 』に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

2. 審査の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで審査を実施致しました。

⑴ 環境マネジメントの概要 ： 組織の状況、運用の概況及び収集されるデータ項目を把握し、検討致しました。
⑵ データの収集・集計および報告の過程 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報・データの収集過程・集計方法を検討致しました。
⑶ データの正確性 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検討致しました。
⑷ 記載情報の正確性、重要な情報の網羅性 ：作成責任者への質問、現場視察による状況把握、内部資料および外部資料との比較検討を実施し、報告書に記載されている記述情報について、正確性及び重要な情報が網羅されているかについて、確認致しました。

当審査機関の報告書審査プロセスは、当社ＩＳＯ9001、ＩＳＯ14001の現地監査、組織の報告書ドラフトの文書審査、組織の現地での報告書審査 、是正処置要求項目の是正が実施された組織の報告書最終稿の確認、により構成されます。審査のプロセス及び、審査の過程に於ける是正処置要求と組織の対応の概要及び結果報告の詳細は精査され、ISOの審査登録の状況については当審査機関のホームページ（ http://www.tuv.com/ ）に公開されています。

以上の手続きの結果、当社は結論を表明するための合理的な基礎を得たと判断しています。

なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン、ＧＲＩサステナビリティリポーティングガイドライン、環境省 環境報告書作成基準、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

本報告書現地審査訪問拠点：　筑波事業所

ＩＳ09001：２００８及びＩＳ014001：２００４ における現地審査訪問拠点：
コーポレート本部ー事業所（ 田町／コーポレート本部、筑波／品質保証部・環境活動推進部、理想開発センター／知的財産部 ）、プリントクリエイト事業部ー事業所（ 新橋 ）、海外営業本部ー事業所（ 田町[徳栄]／海外技術部 ）、営業本部ー事業所（ 田町、田町[徳栄]／技術統括部、CRサポート部沖縄コンタクトセンター、芝浦／営業教育部 ）、開発本部ー事業所（ 田町／開発企画部 ）、製造本部ー事業所（ 筑波／筑波工場・第一技術部・第二技術部・製造企画部・物流部・購買センター、霞ヶ浦／霞ヶ浦工場・リサイクルセンター・物流部パーツセンター、宇部／宇部工場・物流部宇部出荷センター ）、不動産事業部

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『 理想科学工業 環境経営報告書 2016 』及び『 ＷＥＢ掲載の環境データ 』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

4. 意見

【 総評 】

従前より非財務情報開示の中心に環境経営情報の開示を据え、CSR 関連の情報を順次充実させてきた歴史の中で、原材料から製造プロセス、製品の使用段階、そして、廃棄・リユース・リサイクル、に亘る環境配慮を推進し、理想の製品をユーザーに届ける姿勢を多面的に実践されてきたと考えます。70 周年迎えるこの年に歴代の製品を振り返り、これからも変わらぬ姿勢で理想の製品を創り続けることを期待します。

理想の製品を追い求める姿勢が垣間見えるテーマとして、コア技術の一つである「インク開発技術」の中でインクに必要な油成分を大豆由来の油（大豆インク）から米ぬか由来の油（ライスインク）に順次変更していくという取り組みがあります。食物としての需要と競合する大豆から米ぬかに原料を変更することによって食糧問題に配慮し、国内産の米ぬかを使用することで輸送時の CO_2 排出を抑制するという多面的な考え方です。1 つの側面だけでなく、多面的に見ても社会的責任の要請に応える姿勢が評価されるべきと考えます。

【 環境関連 】

まず環境マネジメントについて、PDCA をしっかりと回した環境経営ができていることが本報告書から読み取れます。例えば、本冊子 18 頁及びデータブック図表 1 にその概要が説明されています。中でも特に、2016 年度は生産増加に加えて開発の先行投資等によりエネルギー使用量が増加するものの原単位では改善させるという確固たる意志を掲げられたことは評価に値します。

次にデータの収集・集計および報告の過程を含むデータの正確性について、十分な信憑性を確認しました。例えば、コミュニケーションに苦労しがちな海外事業所の経年データが前年比 10%を超えて変化している場合は理由説明を附加して報告してもらう仕組みを評価します。またハード製品の回収量データでは今回から実測値を使用しています。従来は回収した台数に平均値を乗じた概算数値でした。（なお、概算数値でも±1%の誤差範囲で推移していることも検証できたことを申し添えておきます。）特に、過去報告した数値に間違いがあった場合、率直に修正してその旨説明する姿勢およびその原因を究明して再発防止する仕組みを構築していく姿勢も評価します。

また改善事項の説明に加えて、マイナス要因も情報開示してしっかり説明責任を果たしていることを評価します。本報告書の随所にこうした姿勢が見られます。これにより PDCA がしっかり回り今後とも継続的改善が大いに期待されます。

最後に今後への期待として、一層の環境配慮型製品のグローバルマーケットへの提供促進及びグローバルな視点での環境負荷の一層の低減へ向けたマネジメントをお願いします。

【 社会的な取り組み関連 】

今年の冊子版から国内の全社員に対して配付を行い、冊子自体の印刷インクも上記で紹介した米ぬか由来の油（ライスインク）に変更されています。製品に関する環境配慮というテーマへの関心は年々高まり、社員一人一人が環境経営と製品に関する配慮をより一層理解することの重要性を認識し、ユニバーサルデザインのような読者への配慮を大事にする姿勢に好感を持ちます。今後は、海外の生産拠点や販売会社共に発展していくために海外拠点の社員と向き合い、海外での取り組みの有効性を高めつつ、CSR 情報に読者が親しむ状況を WEB 情報も含めて総合的に整備されることを期待します。

【 環境会計関連 】

環境会計情報の集計プロセスを有効に維持し、重要な事業や拠点における環境リスクを貨幣情報で表現すること、環境配慮性能にまつわる貨幣評価を行うなど、環境会計を応用したメリットとリスクに関する表示に期待します。

以　上